

2024年3月期第2四半期

決算説明会

2023年 11月 10日

株式会社ジェイテクト



実績

- 売上収益は、新型コロナ影響の緩和や半導体不足による影響からの回復に加え、 円安効果もあり前年同期比で増収
- **事業利益**は、インフレに伴うコストアップが継続する中、自動車を中心とした増収 影響や円安効果に加え、**原価低減の推進などにより前年同期比で増益**

業績予想

- 直近の需要予測の反映に加え、前提となる為替レートを更新したことなどにより、 売上収益を 1兆8,500億円、事業利益を 800億円 に上方修正
- 中国で厳しい市場環境が継続する等、種々のリスクは残るものの、将来に向けた 戦略費用は確保しつつ、原価低減を加速することで目標達成を確実なものとする

株主還元

■ 2023年度の配当予想は **年間36円 に上方修正** (期初公表比+4円増配) (前年比+6円増配、中間16円・期末20円、配当性向 30.9%)



1. 2024年3月期 第2四半期実績	P4
2. 2024年3月期 通期業績予想	P 9
3.中期経営計画の達成に向けた取組み1)第一期中計の取組み2)第二期中計に向けて	P15
4.参考資料	P3 0

JTEKT

1-1) 実績 - 連結損益

- 売上収益は、コロナ・半導体不足の影響からの回復、および円安の効果等により増収
- 事業利益は、材料・エネルギー・労務費等が高騰する中でも、自動車を中心とした増収 影響や円安効果に加え、原価低減活動の着実な推進により増益

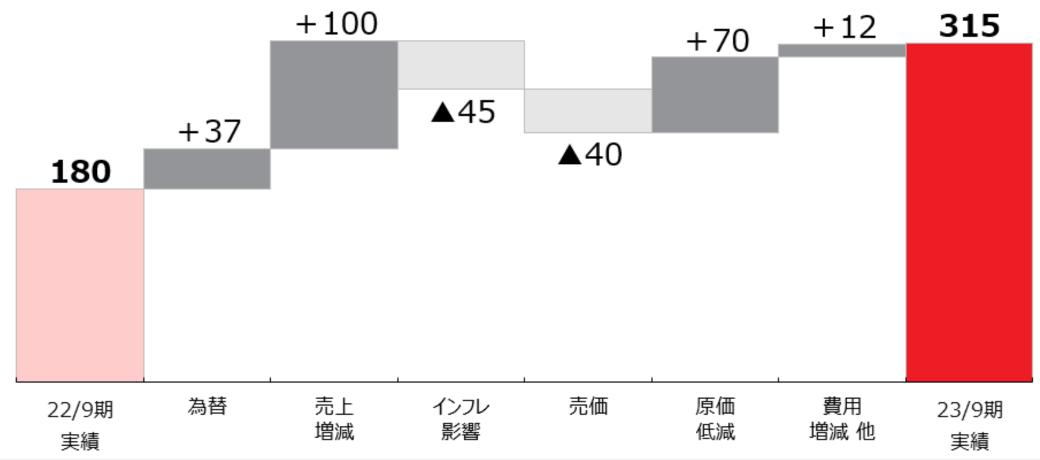
()内は売上収益比 単位:億円

		22/9期 実績		23/9期 実績		増減額	増減率	
売上収益			8,045		9,222	+1,176	+14.6%	
事業利益	%1	(2.2%)	180	(3.4%)	315	+134	+74.6%	
営業利益		(2.3%)	188	(3.8%)	346	+ 158	+83.9%	
税引前利益		(3.3%)	264	(4.5%)	415	+ 150	+57.1%	
当期利益	% 2	(1.5%)	122	(2.5%)	231	+108	+88.9%	
為替レート	USD		133.97円		141.00円	7.03円 円安		
	EUR		138.73円		153.39円	14.66円 円安		
1株当たり当	期利益		35円67銭		67円39銭			

- (※1)「売上収益」から「売上原価」と「販売費および一般管理費」を控除した当社独自の管理利益
- (※2) 親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益

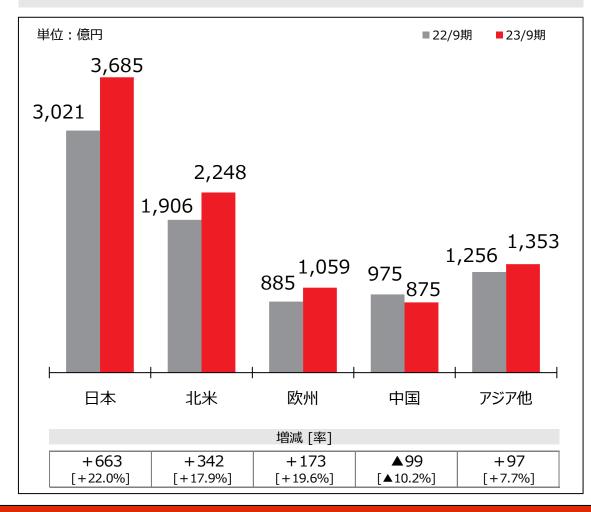


■インフレ影響・客先値引の影響がある中、**売上の回復・円安効果・原価低減の推進**で増益

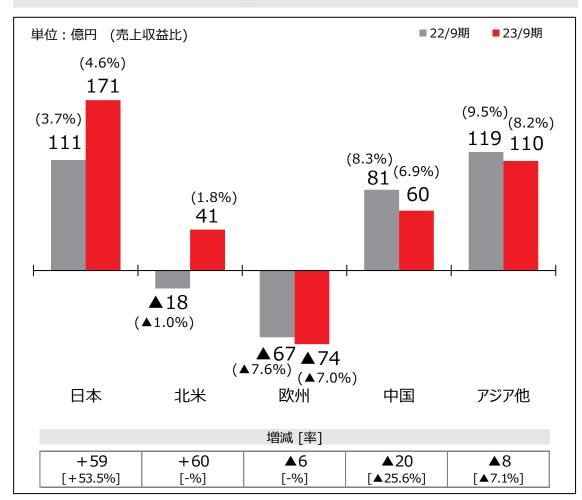


増収・円安効果や原低の推進により**日本・北米で増益**。中国は市場環境の厳しさから減益

売上収益



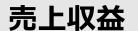
事業利益

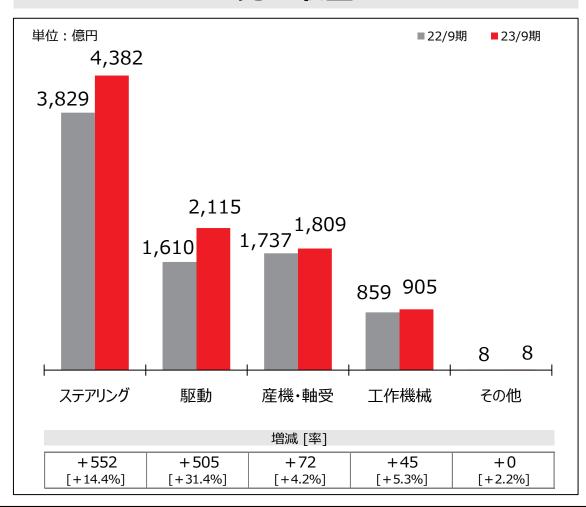


1-4) 実績 - 事業別業績

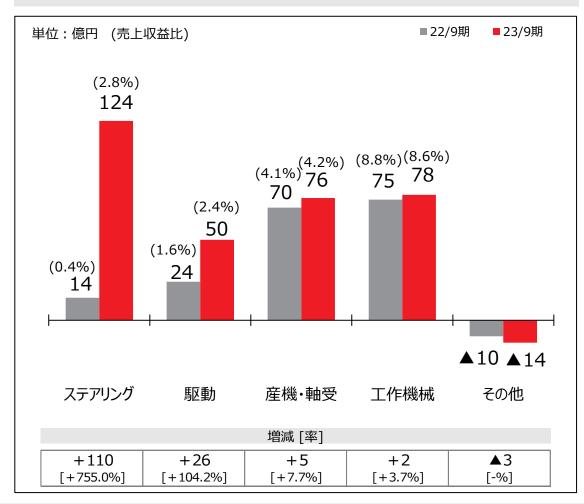


増収・円安効果や原低の推進により戦略費用を確保しつつ、**全事業で増収増益**





事業利益





1. 2024年3月期 第2四半期実績 P 4

2. 2024年3月期 通期業績予想

P 9

3. 中期経営計画の達成に向けた取組み

P 1 5

- 1)第一期中計の取組み
- 2) 第二期中計に向けて

4. 参考資料

P30

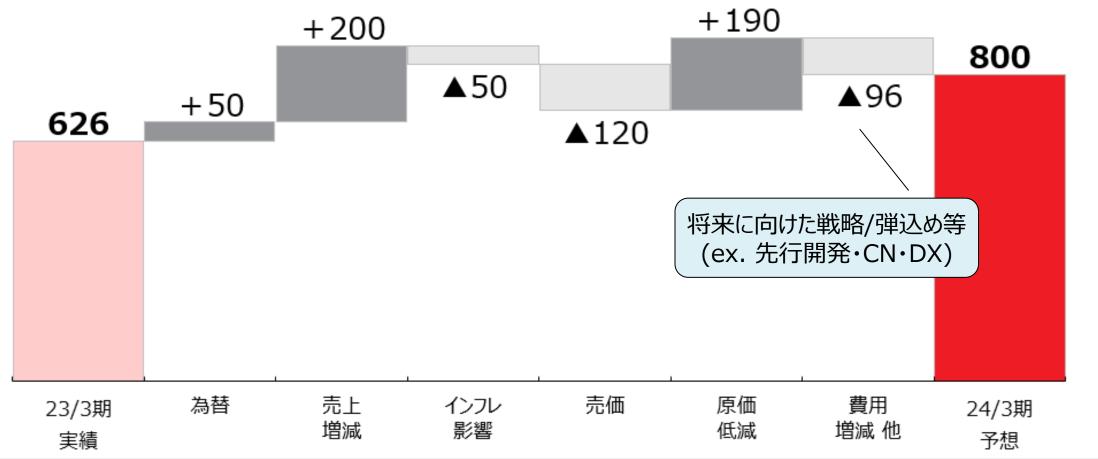
- **ITEKT**
- 直近の市況反映や為替レートの更新により、売上収益、および全ての段階利益を上方修正
- 将来に向けた戦略/弾込め投資を着実に実行しながら、<u>原価低減の加速、インフレ影響の</u> 適切な売価転嫁により目標達成を確実なものとする

()内は売上収益比

単位:億円 期初 23/3期 実績 24/3期 期初予想 24/3期 修正予想 % 予想比 売上収益 16,781 18,500 18,000 +500+2.8% 事業利益 750 (4.3%) 800 **%1** (3.7%) 626 (4.2%) +50+6.7% 営業利益 493 (3.8%) 680 (3.9%) 730 (2.9%)+50+7.4%税引前利益 558 (3.6%) 655 (4.1%) 760 (3.3%)+105+16.0% 当期利益 342 (1.9%) 350 (2.2%) 400 **%**2 (2.0%)+50 +14.3% 為替レート **USD** 141.00円 13円 円安 135.47円 128.00円 **EUR** 140.97円 152.00円 139.00円 13円 円安 1株当たり当期利益 99円94銭 102円05銭 116円62銭

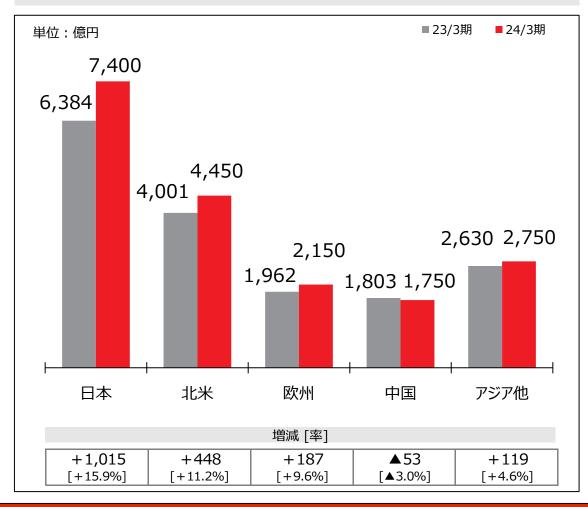
(※1)「売上収益」から「売上原価」と「販売費および一般管理費」を控除した当社独自の管理利益 (※2) 親会社の所有者に帰属する当期利益

- インフレ影響・客先値引の影響がある中、**売上の回復・円安効果・原価低減の推進**で増益
- 増益を確保する中、**将来に向けた戦略/弾込め投資**も着実に実行

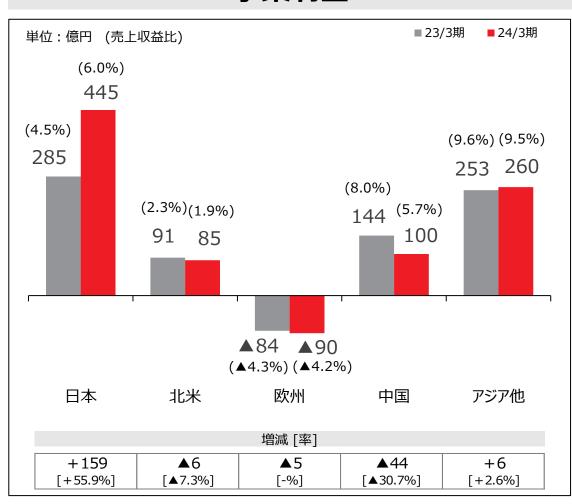


■ 売上増・原低の加速により日本で増益。市場環境が厳しい海外(特に中国)は減益

売上収益

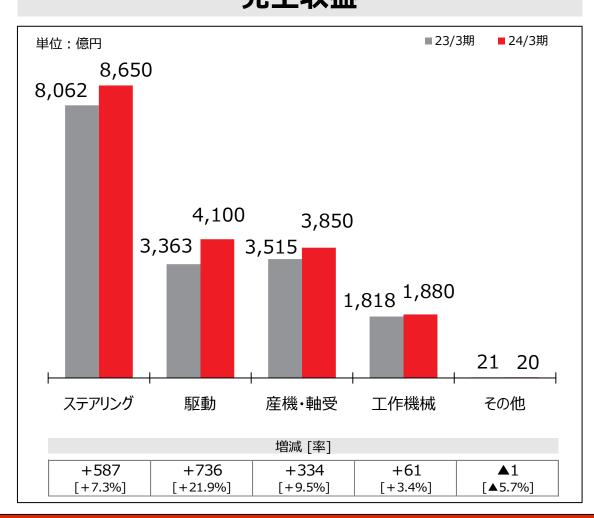


事業利益

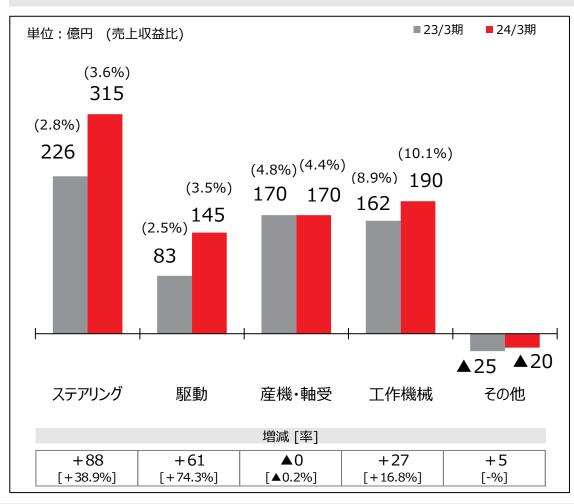


■ 日本を中心に自動車事業(ステアリング、駆動)で**増収、大きく増益**

売上収益

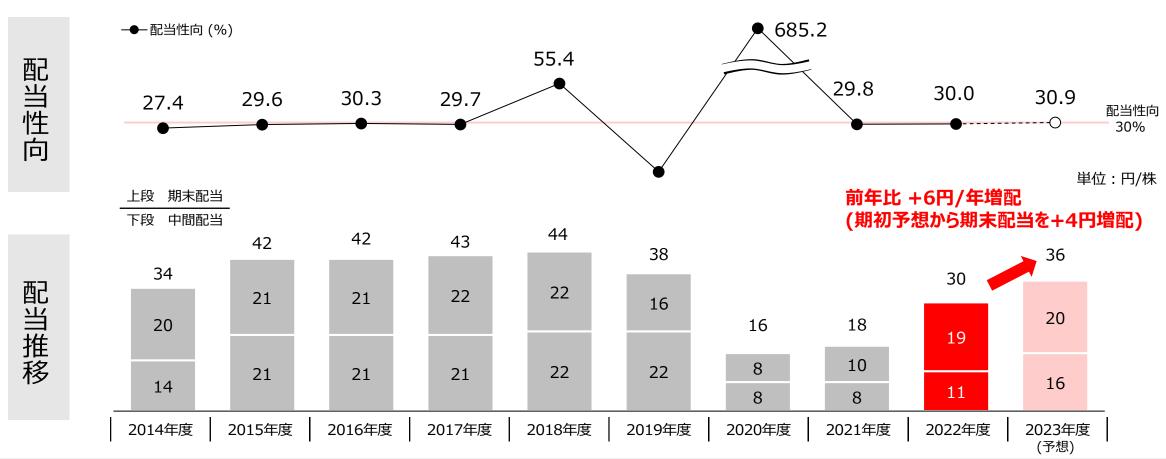


事業利益



JTEKT 13

- 長期安定配当を前提に、「配当性向30%以上」を基準とする ただし、経営環境が悪化している中でも「**DOE 1%以上**」の配当実施
- 業績予想の上方修正に伴い、期末配当予想も+4円増配。年間配当を36円とする





1. 2024年3月期 第2四半期実績 P4

2. 2024年3月期 通期業績予想 P9

3. 中期経営計画の達成に向けた取組み P15

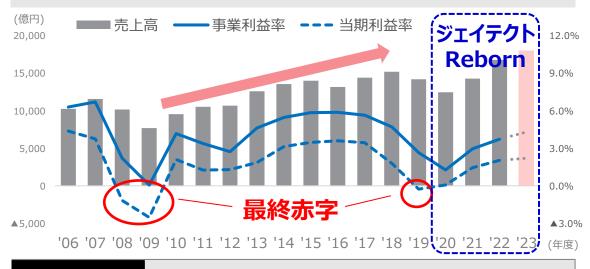
- 1)第一期中計の取組み
- 2) 第二期中計に向けて

4. 参考資料 P30

ITEKT 15

- '19年度(就任前)の当期利益は▲37億円の赤字
- 合併前の旧社体制が残り続けており、企業文化・風土改善が後回し
 - → 真の合併に向けて、外科的治療・内科的治療・漢方治療の三種の治療を遂行

業績推移と赤字の原因



赤字の原因

- ✓ 売上拡大期にコストへのこだわりが希薄化
- ✓ 合併後の統合効果が出し切れていない
- 「変革」「新たな挑戦」を望まない企業風土

三種の治療 (ジェイテクトReborn)

外科的治療

- ✓ 損益分岐点の引下げ
- ✓ 聖域なき収益改善、関係会社統廃合
- ✓ 北米・欧州の構造改革

内科的治療

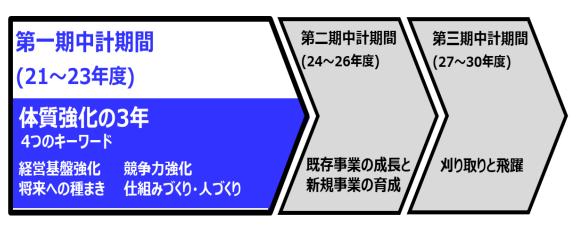
- ✓ 仕事の仕方の見直し
- ✓ グループシーズの発掘・シナジーの創出

漢方治療

- ✓ 基本理念の見直し(人づくり、仕組みづくり)
- ✓ 企業風土改革

■ 第一期中計は体質強化の3年と位置づけ、損益分岐点にこだわり赤字体質から脱却

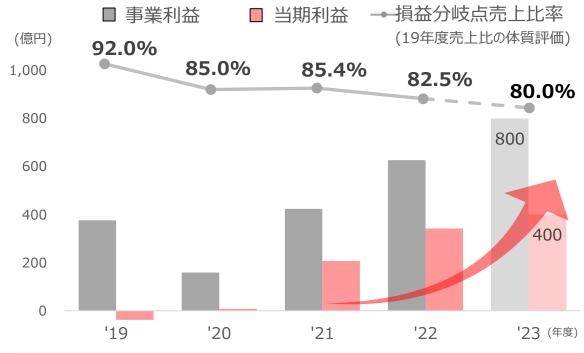
第一期中計期間の目標



	21年度	22年度	23年度
損益分岐点 (19年度売上比)	85%	83%	80%

23年度 事業利益1,000億円を目指す

損益分岐点売上比率の進捗



損益分岐点売上比率 80%の目標達成が射程に入り、 過去最高の事業利益* が狙えるまでに

*2015年度の事業利益:819億円

- 緊急的な止血の後、関係会社の統廃合等を進め、固定費削減・資本効率向上
- 北米の黒字定着と欧州の赤字脱却に向け、構造改革を継続
- 日系OEMが苦戦を強いられている中国についても新たな対策が求められる

聖域なき収益改善

全ての支出を見直し出血を止める

- ✓ 赤字型番ゼロ化
- ✓ 売上上位型番の収益改善活動
- ✓ 無人化・省人化ラインの拡充

関係会社数の適正化

日本・欧州を中心に関係会社の統廃合を推進

地域	'20/3末	′23/9末	差異
日本	37社	27社	▲10社
欧州	30社	22社	▲8社
グローバル計	152社	121社	▲31社

構造改革の進捗

北米

- ① 拠点の統廃合
- ② 最適生産地検討
- ③ 無人・省人ライン導入

欧州

- ① 拠点の統廃合
- ② 事業の選択と集中
- ③ LCCの活用

今後の課題

- 北米 生産性改善の定着が課題
- 物量減・インフレ影響にも耐えうる 更なる構造改革

中国市場変化に追随・対応可能な地域戦略



- これまでの当たり前を見直して **社内のムダを徹底排除**し、仕事の効率を向上
- 各地域・個社の強み・将来戦略について議論する定例会を実施
 - → グループ各社の強み、技術シーズから<u>シナジーを創出</u>

仕事の仕方の見直し

役員のフラット化、定例会導力 根回し文化 即断即決 未来志向の徹底 バックキャスト フォアキャスト 絶え間無い 前例踏襲 仕事の目的を確認 改善

グループシナジー創出

- ✓ 当社グループの強み = 技術力+シーズの幅広さ
- ✓ 各種会議を通じ、グループシナジー創出

役員 CTO会議 グループ各社のCTO*が自社の技術 シーズを持ち寄り、シナジー検討

情報共有

*CTO: Chief Technical Officer

若手 シーズ座談会 グループ各社の若手技術者を集め、 新たな技術のコンピタンスを生み出す

今後の課題

✓ 改善は進むも、グループ全体にまだムダが多い グローバルへの浸透を図る

今後の課題

✓ グループシナジー創出の加速・定着化に向けた 仕組みづくりを推進

- 2023年4月に経営理念体系を再構築し「ジェイテクトの基本理念」に統一
 - → 自動車の変革期において、**強力な改善マインドとグローバル共通の仕事の仕組み**が必要
- ■「言いたいことが言える、やりたいことができる会社」を体現する有志による活動が活性化

基本理念の見直し (人づくり、仕組みづくり)

✓ 「基本理念」を実践できる 人づくりと仕組みづくり には時間をかけて取組む



今後の課題

- ✓ 階層別の教育体系の見直し
- ✓ グローバルでの規程の整備と、個人のノウハウ に頼らない仕事の仕組みの共通化

企業風土改革

- ✓ 互いに切磋琢磨する営業本部有志コミュニティ発足
 - → お客様の課題解決に「答えを出す」 Answers-Laboratory (A-Lab.)
- ✓ これまでの常識にとらわれない発想で、 仕事のやり方を大きく転換することが **できる人財の育成**を目指す

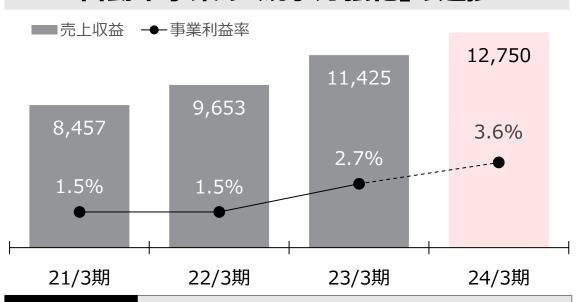


今後の課題

- ✓ 一部の社員が基本理念の実践に動き出した
 - → 全社的なムーブメントにつなげる

- JTEKT 20
- 固定費削減や量産プロジェクトの原価低減(Top5活動)などにより着実に収益性を回復
- 次世代製品への置き換えと高付加価値新製品の投入
により高収益化を目指す

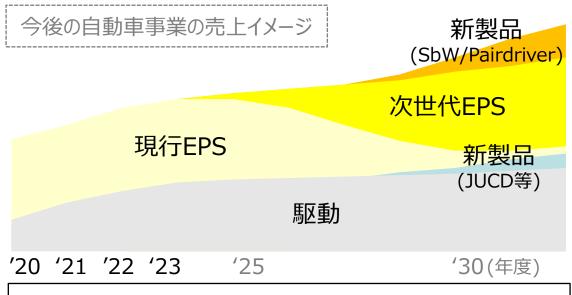
自動車事業の「競争力強化」の進捗



今後の課題

- 連結売上の7割を占める自動車事業の利益率改善 は全社目標の「ROE: 10%」 達成に向けて必須
- 高付加価値製品の市場投入による更なる高収益化

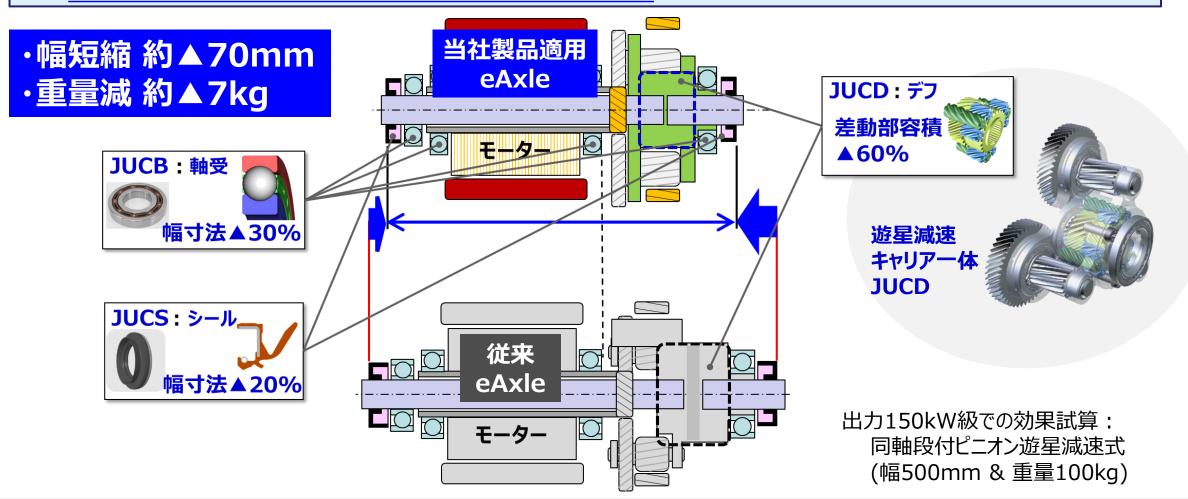
収益力向上の取組み



- ✓ 『シンプル・スリム』をコンセプトに設計/工程を抜本的に 見直した次世代電動パワーステアリング(EPS)に置換
- 電動化/安全・安心・快適な自動運転の実現に貢献 するJUCD/SbW/Pairdriver等の投入

3-1-7) 第一期中計の取組み「自動車事業 (電動化対応製品)」

- 今後拡大するeAxle市場にウルトラコンパクトな製品を投入し、 eAxle搭載自由度向上と電池スペース拡大を通じて、電費向上・航続距離延長
- eAxleの部品メーカーとして幅広いお客様に貢献



自動運転対応の付加価値の高い新製品を順次投入

■ 安全・安心・快適な自動運転の実現に貢献

J-EPICS*(SbW*)

: 自動運転に親和性の高い新ステアリングシステム

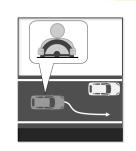


Pairdriver

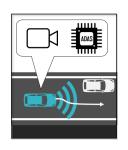
: 人とシステムがシームレスに調和した自動運転を 実現するソフトウェア

人による操作

クルマ(システム) による操作







*J-EPICS®: JTEKT Electronics Performed Intelligent Control Steering

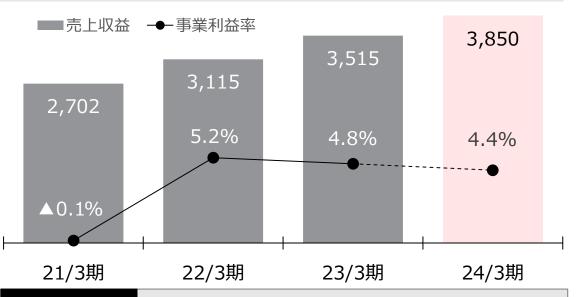
*Steer-by-Wire

✓ リンクレス ステアバイワイヤー技術によって、 運転シーンに応じた「新たなハンドルの操作感」と 「快適な車室空間」を提供

✓ スイッチ操作などの切替動作不要で、 人とクルマの意思を同調させながら運転が可能

- 損益分岐点の改善を意識した体質強化、拠点再編により黒字化
- 2030年に向けて事業構造をBEV(eAxle)&産機成長領域へシフト

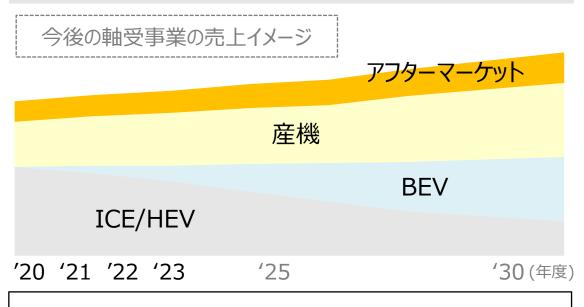
産機・軸受事業の「競争力強化」の進捗



今後の課題

- ✓ 高付加価値軸受(半導体、ロボット向け)の一時的な 需要減で利益率低下
- ✓ 生産性の高い革新ラインの導入、省人化・無人化 ラインの拡大により収益力向上を図る

収益力向上の取組み

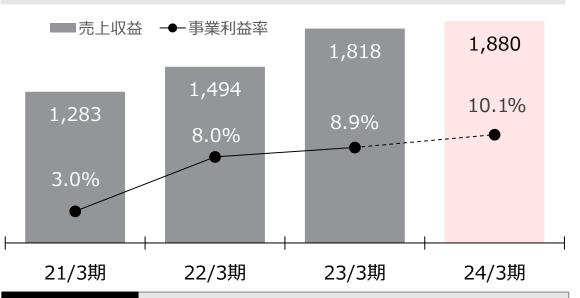


- ✓ BEV向けに、JUCB/JUEBなどの "電費貢献No.1" 製品を投入
- ✓ 産機成長領域の売上拡大に向け、No.1プロジェクト 活動により新規商談を獲得済、シェアも向上



- エンジン向け製品の減少を電動化・自動化・CN等の需要増でカバー
- トヨタのBEV戦略に貢献できる体制をスムーズに構築し、高収益力維持へ

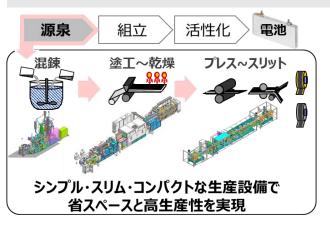
工作機械事業の「競争力強化」の進捗



今後の課題

- ✓ 刈谷工場での電池製造設備ラインの立上と それに伴うグループ会社へのスムーズな生産移管
- **✓ グループシナジーによる高付加価値化**で 更なる高収益事業へ

トヨタ電動化対応に貢献



- 電池製造設備ライン を刈谷工場に集約
- ✓ グループ会社を含めた 生産再編を推進

研削領域No.1に向けたグループシナジー

✓ EV用部品加工需要に対し、圧倒的生産性を実現

ジェイテクトマシンシステム



センタレス研削盤 砥石軸



円筒研削盤 ツーリング装置



3工程⇒1工程へ 全外径一举同時研削

- **ITEKT** 25
- 軸受事業を中心に**裾野の広い顧客情報を収集分析**し、**事業を超えた販売シナジーを発揮**
- 自動車部品の成長で培ってきた**技術力の高さ**と、グループ会社を含めた**シーズの幅広さ**で ジェイテクトグループの強みを発揮

販売面のシナジー効果

①Gr.各社販売拠点集約

(以下、大阪の事例)



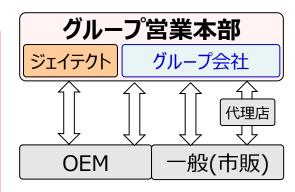
- ✓ コミュニケーション活発化
- ✓ クロスセールス引合増加

凡.例

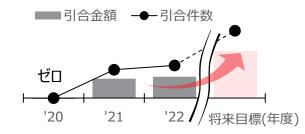
ジェイテクト

グループ会社

②Gr.営業本部の立上げ



クロスセールス引合状況



技術面のシナジー効果

✓ 低損失・低NVな歯車をスピーディーにお客様に提供 するため、グループ各社のシーズ技術を結集



Only One

工具加工技術 工作機械、研究 ジェイテクト ク゛ラインテ゛ィンク゛リール

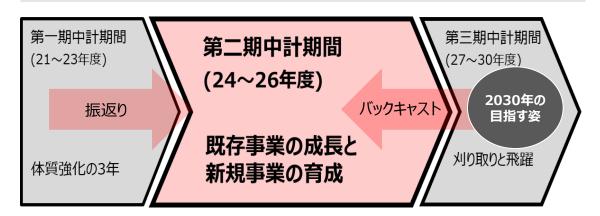
歯車加工技術 工作機械、研究 **゚゚゙シ゛ェイテクトキ゛ヤシステム**

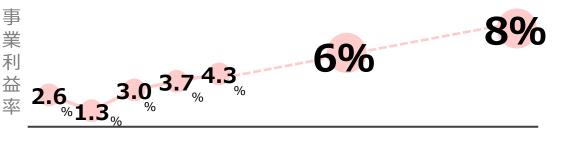


損失:10% 低減、NV:5dB 低減を実現

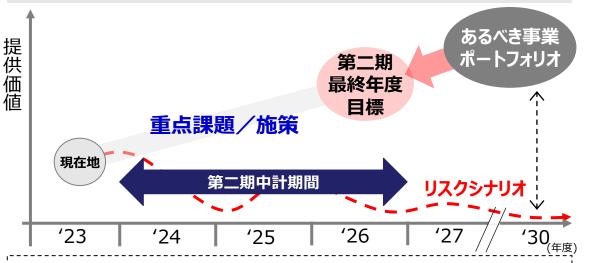
- **ITEKT** 26
- 10年後、20年後もグループの全従業員が笑顔で安心して働ける会社であり続けるために 世界一 (No.1 & Only One) にこだわる
- あるべき事業ポートフォリオと、それに向けたリソースシフトの方針、リスクシナリオを踏まえた 中計施策を検討中

中長期の経営目標



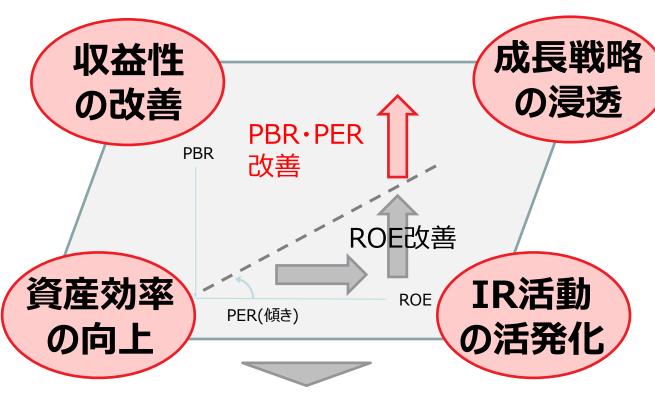


第二期中計の検討イメージ



- 将来あるべき事業ポートフォリオを策定し、リソースの 裏付けのある施策を立案中
- ネガティブインパクトの大きい**リスクシナリオとその影響** をシミュレーションし、回避策を施策に織り込み

- 第二期中計の推進に向け、それを支える強固な財務基盤の整備を推進
- ■「PBR 1倍割れ」・「ROE 8%未満」に対し、「収益性の改善」、「資産効率の向上」、 「成長戦略の浸透」、「IR活動の活発化」の4本柱で取組みを強化・加速



投資家に向けて発信・対話

収益性の改善

- 損益分岐点改善へのこだわり
- 競争力のある高付加価値製品を提供

資産効率の向上

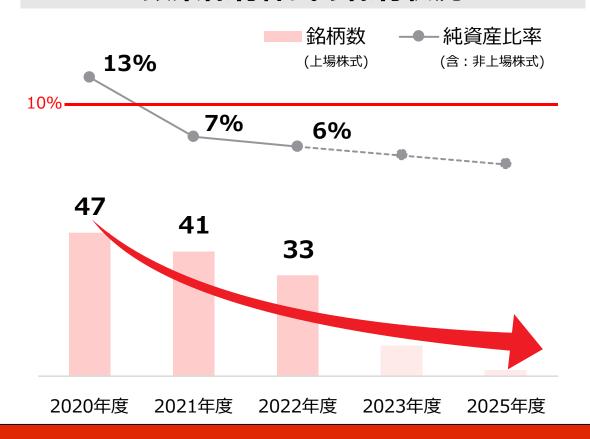
- 拠点統廃合の推進・加速
- 在庫適正化・不要資産の撲滅
- ✓ 政策保有株式の売却・縮減

成長戦略の浸透

- ✓ 事業ポートフォリオの見直し
- ✓ 新規事業・成長領域での収益獲得
- ✓ シーズの掛け合せによる社会課題の解決

- 財務の健全性確保を目的とし、規律の効いた財務方針に基づいた活動を実施
- 資本効率を意識して、「政策保有株式の売却・縮減」を着々と推進
 - → 聖域を設けず、政策保有株式のゼロ化に向けて縮減を継続・加速

政策保有株式の保有状況



これまでの取組み

- ✓ 直近2年間で **14銘柄** の売却が完了
- ✓ 純資産に占める比率 ▲ 7%減少

資本効率の向上に寄与

今後の基本方針

『政策保有株式:ゼロ』 に向けて聖域を設けず縮減



1. 2024年3月期 第2四半期実績 P4

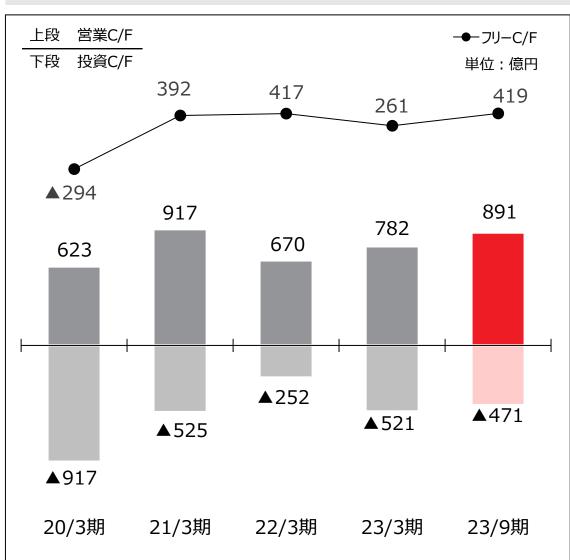
2. 2024年3月期 通期業績予想 P9

3. 中期経営計画の達成に向けた取組み P15

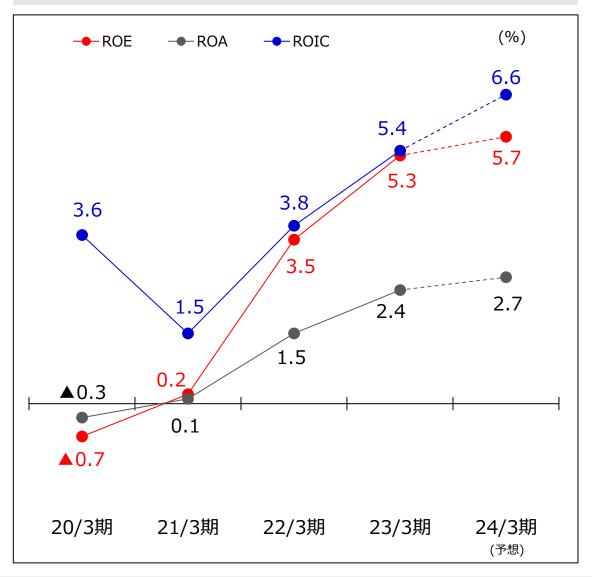
- 1)第一期中計の取組み
- 2) 第二期中計に向けて

4. 参考資料 P30

キャッシュ・フロー

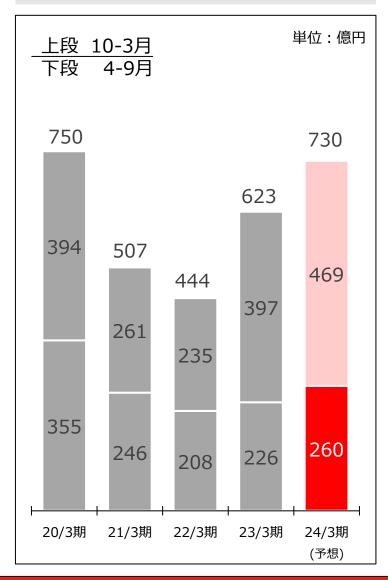


資本効率指標

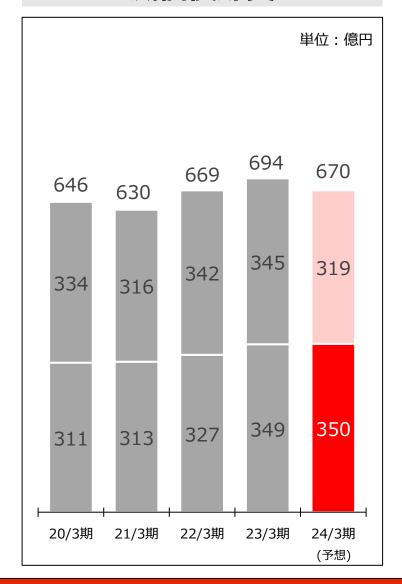


JTEKT 31

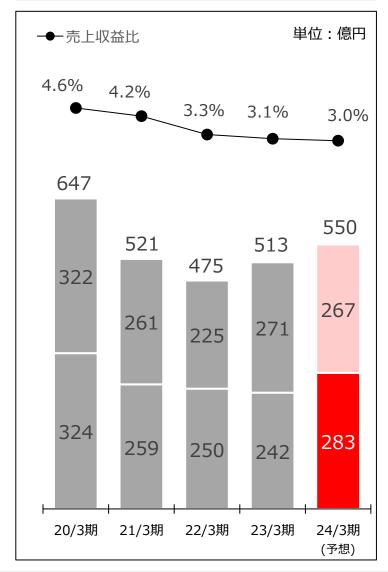
設備投資

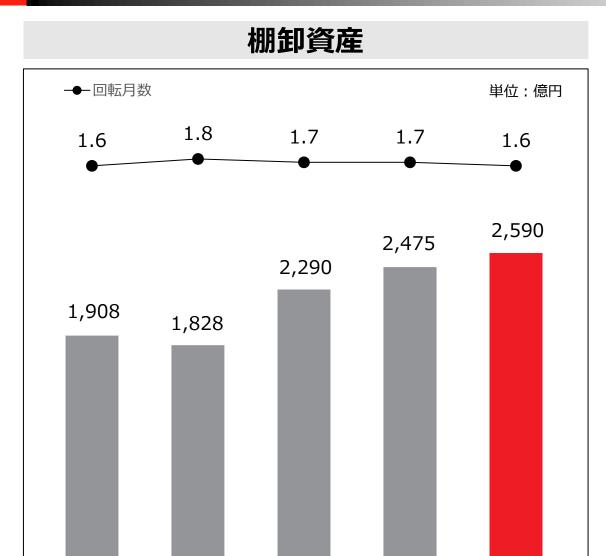


減価償却費



研究開発費





22/3期

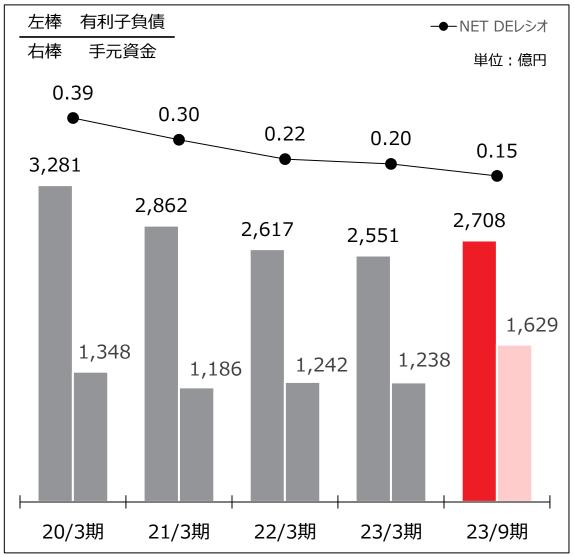
23/3期

23/9期

21/3期

20/3期

有利子負債·手元資金



4-2-1) 財務諸表 - 連結財政状態計算書



資産

単位・億円

			単位:億円
資産	23/3期	23/9期	増減額
現金及び 現金同等物	1,238	1,629	+390
営業債権及び その他の債権	3,503	3,578	+74
棚卸資産	2,475	2,590	+114
その他 流動資産	134	147	+12
有形固定資産	4,669	4,810	+140
その他 非流動資産	2,390	2,891	+500
資産合計	14,413	15,647	+1,233

負債·資本

負債•資本	23/3期	23/9期	増減額
営業債務及び その他の債務	3,465	3,760	+294
有利子負債	2,551	2,708	+156
その他 流動負債	336	327	▲ 8
その他 非流動負債	1,052	1,249	+197
自己資本	6,672	7,280	+608
非支配 株主持分	335	321	▲13
負債·資本合計	14,413	15,647	+1,233

4-2-2) 財務諸表 - 連結損益計算書/連結キャッシュ・フロー計算書 **JTモKT** 34



連結損益計算書

単位:億円

	22/9期	23/9期	増減額
売上収益	8,045	9,222	+1,176
事業利益	180	315	+134
その他収益・費用	7	30	+23
金融収益 •費用等	76	68	▲ 7
法人所得税 費用	▲124	▲170	▲ 46
非支配持分	▲17	▲13	+4
親会社の所有者に 帰属する当期利益	122	231	+108

連結キャッシュ・フロー計算書

	22/9期	23/9期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	270	891	+620
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 238	▲ 471	▲ 233
フリー キャッシュ・フロー	32	419	+387
財務活動による キャッシュ・フロー	▲156	▲ 88	+68
為替換算 差額等	48	58	+10
現金及び現金 同等物の増減額	▲ 75	390	+466
現金及び現金 同等物の残高	1,166	1,629	+462

売上収益

事業利益

JTEKT 35

単位	:	億P
----	---	----

地域	22/9期	23/9期	増	減	為替	23/9期 為替除〈	実質	増減
								
日本	3,021	3,685	+663	+22.0%	-	3,685	+663	+22.0%
北米	1,906	2,248	+342	+17.9%	+130	2,118	+211	+11.1%
欧州	885	1,059	+173	+19.6%	+99	960	+74	+8.4%
中国	975	875	▲ 99	▲ 10.2%	\$ 5	881	▲ 93	▲9.6%
アジア他	1,256	1,353	+97	+7.7%	+35	1,318	+61	+4.9%
合計	8,045	9,222	+1,176	+14.6%	+259	8,963	+917	+11.4%
日本	111	171	+ 59	+53.5%	+36	134	+22	+20.4%
北米	▲ 18	41	+60	-%	+3	37	+ 56	-%
区欠州	▲ 67	▲ 74	▲ 6	-%	▲ 9	▲ 65	+2	-%
中国	81	60	▲20	▲ 25.6%	+0	59	▲21	▲ 26.4%
アジア他	119	110	▲ 8	▲ 7.1%	+5	105	▲ 13	▲ 11.6%
消去	▲ 45	6	+51	-%	+0	6	+51	-%
合計	180	315	+134	+74.6%	+37	278	+97	+54.0%

4-3-2) 業績比較 - 実績 (事業別)

単位:億円

	单位:很 								
	事業	22/9期	23/9期	増	減	為替	23/9期 為替除〈	実質	増減
Г	ステアリング	3,829	4,382	+552	+14.4%	+146	4,236	+406	+10.6%
		1,610	2,115	+ 505	+31.4%	+34	2,080	+470	+29.2%
	自動車	5,440	6,498	+1,058	+19.5%	+180	6,317	+877	+16.1%
	産機·軸受	1,737	1,809	+72	+4.2%	+52	1,757	+19	+1.1%
	工作機械	859	905	+45	+5.3%	+ 25	879	+20	+2.4%
	その他	8	8	▲ 0	+2.2%	+0	8	▲ 0	+2.2%
	工作機械	867	914	+46	+5.3%	+25	888	+20	+2.4%
	合計	8,045	9,222	+1,176	+14.6%	+ 259	8,963	+917	+11.4%
	ステアリング	14	124	+110	+755.0%	+12	111	+97	+666.9%
	駆動	24	50	+26	+104.2%	+3	47	+23	+92.2%
	自動車	39	175	+136	+344.2%	+15	159	+120	+304.1%
	産機•軸受	70	76	+5	+7.7%	+15	60	▲ 9	▲ 14.0%
	工作機械	75	78	+2	+3.7%	+5	72	▲ 3	▲ 4.2%
	その他	▲ 10	▲14	▲ 3	-%	+0	▲ 14	▲ 3	-%
	工作機械	64	63	▲ 1	▲ 1.7%	+5	57	▲ 7	▲11.0%
	消去	5	0	▲ 5	▲ 98.8%	+0	0	▲ 5	▲98.8%
	合計	180	315	+134	+74.6%	+37	278	+97	+54.0%

事業利益

4-4-1) 四半期ごとの業績推移 (所在地別)



2022年度	1Q (4月-6月)		2Q (7月-9月)		3Q (10月-12月)			4Q (1月-3月)				
2022年/支	売上収益	事業利	l益	売上収益	事業利	J益	売上収益	事業利	l益	売上収益	事業利	益
日本	1,381	12	0.9%	1,640	98	6.0%	1,598	70	4.4%	1,763	103	5.9%
北米	893	▲ 10	▲1.2%	1,013	▲8	▲0.9%	961	0	0.1%	1,132	109	9.7%
欧州	442	▲31	▲7.1%	443	▲ 36	▲8.2%	496	▲22	▲ 4.5%	580	5	0.9%
中国	434	25	5.8%	540	56	10.4%	464	53	11.6%	364	9	2.5%
アジア他	565	47	8.4%	690	71	10.4%	682	66	9.7%	691	67	9.8%
消去		▲ 17			▲27			▲ 28			9	
合計	3,716	26	0.7%	4,328	154	3.6%	4,203	140	3.3%	4,532	305	6.7%

2023年度	1Q	(4月-6月)	2Q	2Q (7月-9月)			10月-12月)	4Q (1月-3月)	
2023千/支	売上収益	事業利益	売上収益	事業利益		売上収益	事業利益	売上収益	事業利益
日本	1,728	28 1.7	% 1,957	142	7.3%				
北米	1,110	47 4.2	% 1,138	▲ 5 ▲ 0	0.5%				
欧州	559	▲29 ▲5.3	% 499	▲ 45 ▲ 9	9.1%				
中国	441	31 7.0	% 433	29	6.8%				
アジア他	616	43 7.1	%	67	9.1%				
消去		18		▲ 12					
合計	4,456	139 3.1	% 4,765	175	3.7%				

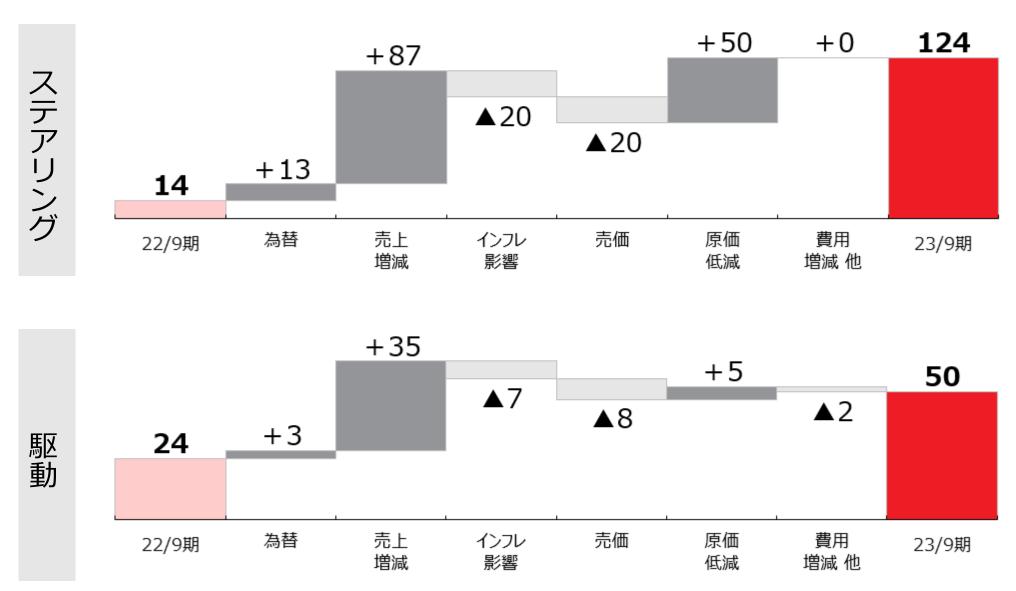
4-4-2) 四半期ごとの業績推移 (事業別)



2022年度	1Q	(4月-6月)	2Q	2Q (7月-9月)			10月-12月)		4Q (1月-3月)		
2022年/支	売上収益	事業利益	売上収益	事業利	事業利益		事業利益		売上収益	事業利益	
ステアリング	1,770	▲ 34 ▲ 1.9	9% 2,059	48	2.4%	2,025	56	2.8%	2,207	155	7.0%
駆動	819	8 1.0	790	16	2.1%	829	5	0.6%	924	52	5.7%
自動車	2,589	▲ 26 ▲ 1.0	2,850	65	2.3%	2,854	62	2.2%	3,132	208	6.6%
産機•軸受	763	30 4.0	973	40	4.1%	882	37	4.3%	895	61	6.9%
工作機械	358	24 6.8	3% 500	50	10.1%	460	43	9.5%	498	43	8.8%
その他	4	▲ 5	4	▲ 5		5	\$ 5		6	▲ 8	
工作機械	362	19 5.3	3% 504	45	8.9%	466	38	8.2%	505	35	6.9%
消去		2		3			2			0	
合計	3,716	26 0.7	⁷ % 4,328	154	3.6%	4,203	140	3.3%	4,532	305	6.7%

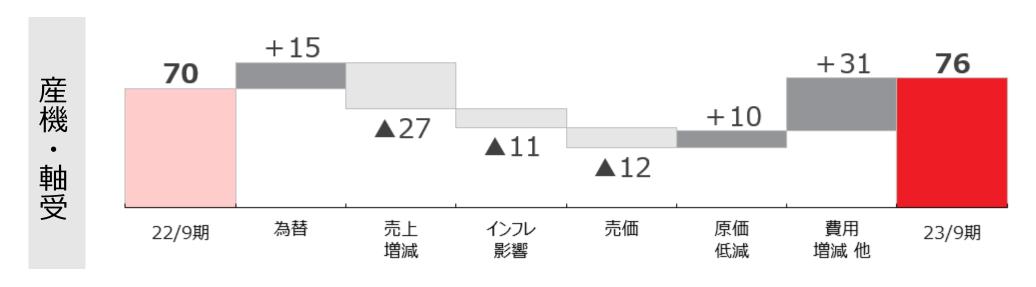
2023年度	1Q (4月-6月)			2Q (7月-9月)			3Q (10月-12月)	4Q (1月-3月)		
2023千/支	売上収益	事業利	益	売上収益	記上収益 事業利益 <i>見</i>		売上収益	事業利益	売上収益	事業利益	
ステアリング	2,151	54	2.5%	2,231	70	2.8%					
駆動	980	23	2.4%	1,135	27	2.4%					
自動車	3,131	78	2.5%	3,366	97	2.7%					
産機・軸受	897	32	3.6%	912	43	4.2%					
工作機械	421	34	8.2%	483	43	8.6%					
その他	5	▲ 7		2	▲ 7						
工作機械	427	27	6.5%	486	35	6.9%					
消去		1		486	▲ 1						
合計	4,456	139	3.1%	4,765	175	3.4%					

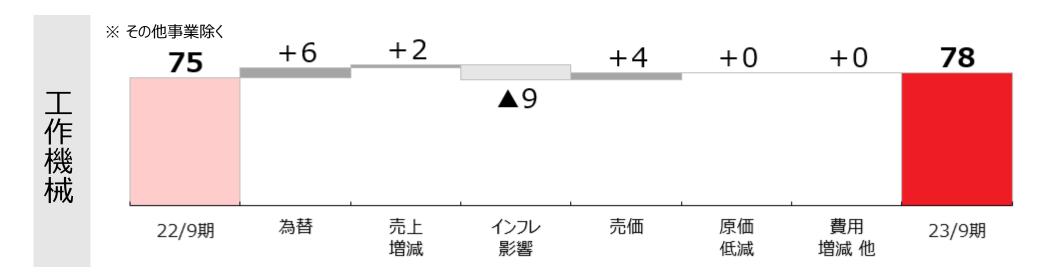




4-5-2) 事業利益増減分析 - 事業別 (産機・軸受/工作機械)







4-6-1) 業績比較 - 予想 (所在地別)



	地域	23/3期	24/3期	増減		為替	24/3期 為替除〈	実質:	増減
-1-	日本	6,384	7,400	+1,015	+15.9%	-	7,400	+1,015	+15.9%
	北米	4,001	4,450	+448	+11.2%	+180	4,270	+268	+6.7%
上	欧州	1,962	2,150	+187	+9.6%	+120	2,030	+67	+3.5%
売上収益	中国	1,803	1,750	▲ 53	▲3.0%	▲30	1,780	▲23	▲1.3%
益	アジア他	2,630	2,750	+119	+4.6%	+30	2,720	+89	+3.4%
	合計	16,781	18,500	+1,718	+10.2%	+300	18,200	+1,418	+8.5%
	日本	285	445	+159	+55.9%	+ 55	390	+104	+36.6%
	北米	91	85	^ 6	▲ 7.3%	+5	80	▲11	▲ 12.8%
事	欧州	▲ 84	▲ 90	\$ 5	-%	▲ 5	▲85	+0	-%
事 業 利 益	中国	144	100	▲ 44	▲30.7%	▲ 5	105	▲39	▲27.2%
社	アジア他	253	260	+6	+2.6%	+0	260	+6	+2.6%
1111	消去	▲ 63	0	+63	-%	+0	0	+63	-%
	合計	626	800	+173	+27.7%	+50	750	+123	+19.7%

4-6-2) 業績比較 - 予想 (事業別)

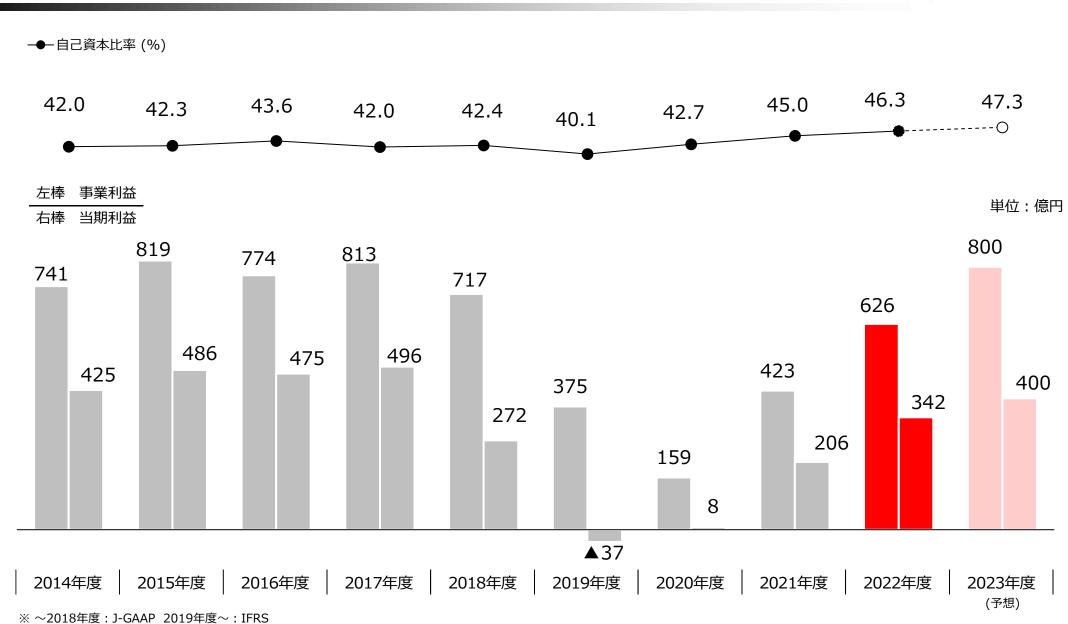
単位	:	億円
— 1 <u>:-</u> -	•	1/6/1 7

	事業	23/3期	24/3期	増減		為替	24/3期 為替除〈	実質増減				
	Г											
	ステアリング	8,062	8,650	+ 587	+7.3%	+150	8,500	+437	+5.4%			
	駆動	3,363	4,100	+736	+21.9%	+50	4,050	+686	+20.4%			
壱	自動車	11,426	12,750	+1,323	+11.6%	+200	12,550	+1,123	+9.8%			
1	産機・軸受	3,515	3,850	+334	+9.5%	+70	3,780	+264	+7.5%			
Ī	工作機械	1,818	1,880	+61	+3.4%	+30	1,850	+31	+1.7%			
上 汉 溢	その他	21	20	1	▲ 5.7%	+0	20	1	▲ 5.7%			
	工作機械	1,839	1,900	+60	+3.3%	+30	1,870	+30	+1.7%			
	合計	16,781	18,500	+1,718	+10.2%	+300	18,200	+1,418	+8.5%			
	ステアリング	226	315	+88	+38.9%	+41	274	+47	+20.9%			
	馬区重力	83	145	+61	+74.3%	+11	134	+50	+61.1%			
	自動車	309	460	+150	+48.4%	+ 52	408	+98	+31.7%			
F	産機・軸受	170	170	▲0	▲0.2%	▲ 10	180	+9	+5.6%			
事 業 刊	工作機械	162	190	+27	+16.8%	+8	182	+19	+11.9%			
_	その他	▲25	▲20	+5	-%	+0	▲ 20	+5	-%			
益	工作機械	137	170	+32	+23.6%	+8	162	+24	+17.7%			
	消去	8	0	▲8	-%	+0	0	▲8	-%			
	合計	626	800	+173	+27.7%	+50	750	+123	+19.7%			

事業利益

4-7) 利益推移











【将来見通しに関する注意事項】

本資料には、業績予想、将来予測に基づく計画、戦略の記述が含まれています。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績は記載内容とは異なる可能性があります。